

【表2】鍋島直正(1814～71) 関係略年表

■「鍋島直正、姓は藤原、幼名は貞丸、中頃直謀又は齊正と称し閑叟、茶雨、拳堂、恂菴、紫水等の別号をもつて居られた。父は、斉直、母は松平相模守治道の女、幸姫と称して居られた。」(中島吉郎・水町義夫共著・久米邦武校閲『鍋島閑叟公』)

■「別号 藤世龍 昆谷 茶雨亭 紫水 拳堂 蓮齋 恂亭 恂菴 怪菴 蓮池翁 溜池」(寺崎家寄贈資料)

年	(西暦)	出来事	齢
文化11	1814	12月7日、江戸の桜田屋敷で鍋島直正誕生。幼名「貞丸」。	1
文政2	1819	古賀穀堂、直正の御側頭となる。	6
文政8	1825	11月27日、將軍徳川家斉の女「盛姫」と結婚。	12
文政10	1827	11月15日、登城、初御目見(おめみえ)。 12月元服し、従四位に叙され、信濃守に任じられる。	14
文政11	1828	12月、侍従に任じられる。	15
天保元	1830	2月7日、襲封(第10代佐賀藩主)。 5月1日、粗衣粗食令を出す。 6月7日、直正、長崎の唐館・蘭館を巡視し、蘭船に乗り見学。 10月14日、古賀穀堂を御年寄相談役に任用。 11月、肥前守に任じられる。	17
天保2	1831	6月14日、古賀穀堂、藩主直正に『済急封事』を提出。 9月、長崎警備を強化。 12月5日、伊東玄朴(蘭医)を藩御用一代侍に任用。	18
天保3	1832	6月20日、向こう5年間、城中諸役の儉約令を公布。	19
天保4	1833	2月19日、直正、砲術訓練を奨励し、巡視。 6月11日、財政再建7ヶ年計画を作成。 9月12日、古賀穀堂、藩政改革の意見を提出。	20
天保5	1834	7月16日、医学館を城下八幡小路に設立。	21
天保6	1835	5月10日に佐賀城二の丸から出火し、焼失。三の丸に居住。 11月、左近衛少将に任じられる。	22
天保8	1837	4月、岩田砲術練習場で大砲の実射試験。	24
天保9	1838	6月4日、本丸普請成就。本丸に居住。	25
天保10	1839	1月28日、前藩主鍋島斉直(実父)没(享年60歳)。 10月、直正の姉「猶姫」、宇和島藩主伊達宗城に嫁す。	26
天保11	1840	5月、弘道館を拡張し、学館頭人に執政鍋島安房を任用。 6月24日、今津江尻で軍艦38艘による海軍演習を実施。 9月6日、神埼郡岩田で高島流砲術演習を実施。	27
天保12	1841	8月17日、直正の姉「定姫」、久世通熙に嫁す。 10月17日、大野原で異国船攻撃の大演習を実施。	28
弘化元	1844	4月20日、長崎伊王島に大モルチール砲を設置。 5月5日、火術方を設け、砲術研究を開始。 8月6日、オランダ式銃100挺の製造を開始。 9月19日、直正、オランダ軍艦パレンバン号を見学。	31

年	(西暦)	出来事	齢
弘化3	1846	8月27日、嫡子淳一郎(のちの直大)誕生。	33
弘化4	1847	2月10日、直正の正室「盛姫」没(享年37歳)。	34
嘉永2	1849	8月22日、榑林宗健、直正の世子淳一郎に種痘を実施。 12月6日、直正、田安家の筆姫と再婚。	36
嘉永3	1850	10月2日、築地に反射炉を築き、大砲を铸造。	37
嘉永5	1852	11月10日、精煉方を設ける。	39
嘉永6	1853	8月14日、幕府に攘夷を建言。 8月15日、幕府、大砲50門を佐賀藩に注文。 8月、オランダ商館長に軍艦購入を依頼。	40
安政元	1854	1月22日、幕府、直正に長崎警備専任を命じ、5年間諸公役・参府を免除する。 8月18日、伊王島、神ノ島の築堡完成。 8月26日、直正、オランダ船スンビン(観光丸)を見学。	41
安政4	1857	5～11月、島義勇、蝦夷地を調査。	44
安政5	1858	1月23日、三重津に船手稽古所(海軍学校)を仮設。 10月9日、オランダから電流丸を購入。	45
安政6	1859	12月16日、直正、中将に昇任。 12月18日、幕府、観光丸を佐賀藩に預託。	46
文久元	1861	11月20日、直正隠居し、「閑叟」と号す。直大が家督相続(第11代藩主)。	48
文久2	1862	5月8日、軍制改革を実施。 12月19日、直正参内し、攘夷の勅命を拝受。	49
文久3	1863	10月11日、三重津で幕府注文の蒸気機関完成。	50
元治元	1864	宰相任命の内意を受けるも、直正辞す。	51
慶応元	1865	5月19日、直正、長崎でボードインの診察を受ける。 9月、三重津造船所で凌風丸が完成。	52
慶応2	1866	2月22日、将軍家茂、親書をもって直正に上坂を要請。 5月、阜月丸を購入。 8月30日、一橋慶喜、親書をもって直正に上京を要請。	53
慶応3	1867	7月19日、直正、大坂で慶喜が会談し、長州処分の意見を発表。	54
明治元	1868	2月6日、佐賀藩兵、東征軍北陸道先鋒として従軍。 2月、議定職に任じられる。 4月、従二位に叙され、権中納言に任じられる。 5月15日、佐賀藩兵、アームストロング砲をもって上野戦争で活躍。	55
明治2	1869	2月、薩長土肥の4藩主による版籍奉還。 5月15日、直正、上局議長に就任。 6月6日、政府、鍋島直正を蝦夷開拓総督に、島義勇を同判官に任命。 8月16日、直正、大納言に就任。	56
明治3	1870	病気に罹る。	57
明治4	1871	1月18日、鍋島直正没。同23日、正二位を贈られる。	58

※杉谷昭著『佐賀偉人伝01鍋島直正』及び中島吉郎・水町義夫共著・久米邦武校閲『鍋島閑叟公』(大正2年)、福井尚寿調査カードをもとに、浦川和也が作成した。